

めぐみイエス・キリスト教会

2021年1月17日(日)第三主日新年礼拝
週報「通算第540号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌40「ガリラヤの風かおる丘で」	p. 57
【交読文】	No.3 詩篇第16篇	p. 880
【賛美Ⅱ】	新聖歌266「罪・咎を赦され」	p. 418
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル賛美19「共に住み、共に生き」	
【聖書朗読】	ヨハネの福音書20章24節～29節(2017新約p. 228)	
【礼拝説教】	《平安があなたがたにあるように》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書20章24節～29節】

20:24 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

●ポイント1. 「週の初めの日」の夕方に起こった出来事とは？

※ヨハネの福音書20章19節～23節「一週間前の出来事」(新約p.228)

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わします。」

20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

●ポイント2. 主イエスが言われた弟子たちへの最初の命令とは？

※マタイの福音書28章10節「園の墓に来た女たちへの伝言」(新約p.64)

28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、私の兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこで私に会えます。」

●ポイント3. 「見ないで信じる人たちは幸いです」とは？

※ヘブル人への手紙11章6節「信仰がなければ」(新約p.451)

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならぬのです。

※ヘブル人への手紙13章8節「イエス・キリストは」(新約p.456)

13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

◎先週のメッセージの概要【2021年標題聖句から】

《2021年の標題聖句は、ヨハネの福音書20章21節～22節になります。

その日とは、週の初めの日、今で言う日曜日にあたります。安息日の土曜日には、二手に分かれていた使徒たちは、トマスを除いて同じ場所に集まっていました。おそらくエルサレムにあるヨハネ・マルコの家であって、三日前に「最後の晚餐」を主イエスと共に過ごした場所です。

さて、エルサレムでは、『弟子たちが夜やって来て、ローマ兵の見張りが眠っている間にイエスの体を盗んで行った』と言ううわさが広まっていました。それゆえ弟子たちは、ユダヤ人指導者たちを恐れ、カギを閉めて、ひっそりとなりを潜めていたのです。そこに突然、主イエスが来られ、彼らの真ん中に現われて言われます。「平安があなたがたにあるように。」

主イエスは十字架にかけられる直前に、弟子たちに約束されました。『「私はあなたがたに平安を残します。私の平安を与えます。私は、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。恐れてはなりません。」』と。主が与えて下さる平安とは、主の平安であると言うのです。その答えが、「聖霊を受けなさい」と言う言葉なのです。かつて主は、弟子たちに聖霊について、このように教えられました。『「私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、そのお方がいつまでも、あなたがたと共にいるようにして下さいます。この方は真理の御霊です。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたと共におられ、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」』

主イエスの霊であり、神様の第三位格なるお方が共にいて下さる、しかも私たちの内に住んで下さる、これこそが本当の平安なのです。それだからこそ、主は弟子たちに、「聖霊を受けなさい」と言われたのです。

私たちは、本物の平安を持っています。そして真理と真実を知っています。それゆえ私たちは心を騒がせる必要はなく、また恐れることもないのです。私たちは、助け主であられる聖霊と共に歩んで行くのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は2021年1月24日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、1月13日(水)各家庭において行ないます。